

災害医療

見直しの視点

視点2 現行計画策定後の変化（多様化する災害への備え、感染症対策等）

見直しの背景

- 平成30年に相次いだ自然災害では、停電や断水等により被災地の医療提供体制に大きな影響がありました。また、令和元年の台風第15号や同19号では、関東でも暴風や大雨の影響により、甚大な被害が発生しています。
- 台風第19号で被災した医療機関への支援や、新型コロナウイルス陽性患者入院調整本部での入院調整への助言など、東京DMATはその特性を活かし、都の災害対応の充実に貢献しています。

課題と取組の方向性

＜課題1＞医療機関の受入体制

（新規）

- 多様化、大規模化する自然災害に備え、災害拠点病院及び災害拠点病院を補完する災害拠点連携病院が、災害発生時において、役割分担に応じた機能を十分発揮できるよう、より一層、体制整備を進めていく必要があります。

（取組1）医療機関の受入体制の確保

[基本目標 II]

（新規）

- 災害拠点病院及び災害拠点連携病院が、災害時にそれぞれの役割分担に応じたその機能を十分に発揮できる、病院の機能を維持するための取組等を指定要件に明示するとともに、各病院の取組を支援していきます。

（新規）

- 都のBCP策定ガイドラインに、災害拠点病院に加え、災害拠点連携病院向けのガイドラインを作成するとともに、病院の規模や機能に応じた備蓄燃料等の例示や、新たに風水害対策を盛り込み、医療機関のBCPを軸とした災害対策の取組を推進していきます。

（新規）

- 感染症まん延時の災害発生に備え、緊急医療救護所等における感染症対策について、区市町村や関係団体、感染症専門医等の意見を踏まえながら検討を進めます。

<課題 2> 医療救護体制の強化

(1) 区市町村等の医療救護体制

(取組 2-1) 区市町村等の取組支援

[基本目標 II]

(新規)

- 感染症まん延時の災害発生に備え、緊急医療救護所等における感染症対策について、区市町村や関係団体、感染症専門医等の意見を踏まえながら検討を進めます。《再掲》

<課題 3> 東京 DMAT の体制強化

(新規)

- 都の救急医療、災害対応に精通した東京 DMAT の強みを活かし、都の災害医療体制をより一層充実していく必要があります。

(取組 3) 東京 DMAT の体制確保

[基本目標 I]

(新規)

- 災害発生時の医療機関支援や、大規模イベント時や感染症発生時等に都が設置する対策本部への参画、感染症対策支援チームとの連携など、東京 DMAT の特性を活かした新たな活動内容について検討を進め、都の災害医療体制の充実を図ります。